



Title	<紹介>川崎剛志編『修験道の室町文化』
Author(s)	勢田, 道生
Citation	語文. 2012, 98, p. 56-56
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/69200
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

川崎剛志編『修驗道の室町文化』

勢田道生

一〇〇八年に名古屋大学で開催された研究集会「室町時代における修驗道の儀礼再興と文化興隆」の成果を中心まとめられた本書は、室町前期から後期にいたる修驗道の展開と、これに関わる文化の諸様相についての論考十編を収める。目次は以下の通り。

室町前期における熊野三山再興と文化興隆 川崎剛志／熊野速玉大社の古神宝関連資料に見る神仏習合—その仏教的意匠を手がかりに— 安永拓世／『熊野詣日記』の制作圈—熊野参詣の儀礼と物語草子— 恋田知子／本山派修驗寺院と本座田楽—文安三年の住心院における田楽能興行をめぐって— 天野文雄／熊野参詣儀礼の図像化—フーリア美術館蔵「熊野宮曼荼羅」をめぐって— 川崎剛志／『平家物語』の諸本展開と寺門派修驗—平家享受の場との交渉を視野に入れつつ— 源健一郎／十五世記の熊野における不動堂本尊の造像—本宮護摩堂と那智滝本山上不動堂— 大河内智之／「槻峯寺建立修行縁起絵巻」と修驗のランドスケープ 高岸輝／『箱根権現縁起絵巻』と後北条氏の修驗文化 阿部美香／修驗における宗教テクストの輪郭—その縁起と図像をめぐる覚書— 阿部泰郎／あとがき 川崎剛志

冒頭の川崎論文では、修驗道史上の二期と位置づけられる室町

前期、將軍義満・義持期に行われた熊野三山の整備と再興について、京都と三山双方における展開が示されるとともに、その後の展開について、本書全体の見取り図が示される。以下の論考は、南北朝再末期から天正期まで室町時代全体をカバーし、その対象も、『熊野詣日記』の特徴および成立圈についての検討（恋田論文）、『平家物語』の伝本形成における寺門派修驗の影響の問題（源論文）など国文学の範囲のみならず、熊野速玉大社の神宝類（安永論文）、フーリア美術館蔵「熊野宮曼荼羅」（川崎論文）、不動堂本尊（大河内論文）などについての分析、田楽能における修驗道の影響の問題（天野論文）、さらに、明応期における細川京兆家権力と修驗道の関わり（高岸論文）や、後北条氏権力下における東国修驗文化の展開（阿部美香論文）にまで及ぶ。そして、このように多岐にわたる信仰文化の諸様相を統括する視点として、修驗道についての、文字テクストに留まらない「複合宗教テクスト」を読み解く阿部泰郎論文が末尾に配され、中世世界における修驗道の宗教テクストの重要性が示される。

（せた・みちお 本学大学院助教）